

## カーニバル

カーニバルと言えば、日本人はたぶんブラジルのリオデジャネイロの派手なサンバ踊りを連想するであろうが、ドイツにもかなり古い伝統に基づくカーニバルのイベントがある。ところで、一言で「ドイツ」と言っても、このような行事は



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 10

カトリック地方の慣習であって、プロテスタント教会が強い地方ではこのようである。(その代わりに40日間、

## 学校教育より伝統を優先

を記念する行事がある。私のクラスでも実施したことがあるが、授業の最中で、ドであるが、児童生徒の多くはパレードを見に行くから、学校は「休み」となっていた。このように、学校教育よりもずっと古い伝統を優先的に取り扱うことは笑い話ではなく正論だ、という大事なメッセージが、寒い冬の季節に、毎年社会に発信されている。



リンブルクのカーニバル・パレード (56年)

食事を多少制限する「四旬節」もないが。言うまでもなく、カーニバルに関係がある習慣は学校教育にも大きな影響を及ぼしている。

11月の11:11に皆が立ち上がった、マインツの有名なカーニバルで使われている掛け声「ヘラウ！」で心の準備に意気込んでいた。大

体の先生もこのぐらいのこととは覚悟しているの、「問題行為」と見なされていなかった。多くの町ではカーニバルのメイン・イベントは謝肉祭の月曜日、「ローゼンモンタク」(薔薇の月曜日)のパレー

から、木・林・森の合理的な表現を多少うらやましく感じた。子どもにとってカーニバルの一番大きな魅力は仮装してパレードを見たり、一緒に歩いたりすることである。子どもだけではない。思いきって馬鹿げた格好してパレードに参加する大人も少なくない。しかし、古い写真を見ればいつも気になる。子どもたちの仮装にはインディアンとカウボーイが非常に多い。普段見せることができない「自分」を披露するチャンスなのに、結果的に皆はまた全く同じ格好になるのは何故だろうか。